

2018年4月20日

AIを活用した

稼働トラブル原因推定システムの運用開始

● ユーシン精機 ●

プラスチック射出成形品取出ロボット専門メーカーの（株）ユーシン精機（社長／小谷眞由美、本社／京都市、資本金／19億8566万円）はこのほど、新開発のAI（人工知能）技術を活用した取出ロボットの稼働トラブル原因の推定が可能なシステムを社内向けに運用開始しました。今回の稼働トラブル原因推定システムを利用すると、お客様の生産現場にご導入いただいている取出ロボットにトラブルが発生した場合、従来よりも短時間で正確に原因究明と対策が可能となり、お客様での設備が止まる時間を短縮することができ、生産性の向上に貢献できます。

プラスチック射出成形業界において長年にわたり成形品取出ロボットを提供し、世界各国で10万台以上が稼働し続けているユーシン精機のサービス担当者は日々、お客様からのお問い合わせやトラブルの対応を行っています。その中で培った膨大な症例データを保有しており、そのデータを最新のAI技術により解析することでトラブルの原因を推定することに成功しました。従来は、お客様からお電話などでトラブル症状をお聞きし、その情報をもとに過去からの経験で原因を推定していましたが、経験値の少ないサービス担当者はより多くの準備を行うことでカバーしていました。これからは経験値の多少に関わらず、さらに正確で迅速なサービスを提供できます。

現在、ユーシン精機では独自のIoTサービス「INTU LINE」を標準搭載した最新型の取出ロボット「FRA」を発売しており、この稼働トラブル原因推定システムに「INTU LINE」から得られる情報が加わると、さらに推定精度の向上が見込まれ、まさにビッグデータを活用したAI推論システムができあがります。「INTU LINE」では取出ロボットのメンテナンスに関わるモータやベルト、制御基板などの情報を収集しており、今後はさらに研究を進めトラブルが発生する前に予兆を判断する予知保全へと進化させてまいります。これにより、お客様での設備稼働がより安定したものとなることで更なる生産性向上に貢献してまいります。

<代表取締役社長 小谷 眞由美のコメント>

「ユーシン精機はこれからもお客様に付加価値の高いサービスを提供していくために、その持続可能性についても慎重に検討を進めております。同時に「働き方改革」が提唱される今後の労働環境に配慮したサービスでなくてはなりません。ユーシン精機のサービス担当者はお客様より高いご評価をいただいておりますが、その不斷の努力をこうした新しい技術でサポートすることで会社も個人もレベルアップし、その結果、不測のトラブルや緊急出動などが削減できれば、その技術は社会に対する存在意義が大きいと思います。」

(問合せ先)

広報担当：事業推進企画室 江副（えぞえ）

TEL：075-925-0400

本社：京都市南区久世殿城町 555 番地

【補足】

※AI（Artificial intelligence）人工知能

人工的に処理能力および記憶容量が飛躍的に増加したコンピュータ上などで人間の知能を実現あるいは模倣するための概念、技術の総称。今回、ユーシン精機ではこの AI 技術で機械学習の手法の一つであるディープラーニング（深層学習）を用いて課題解決を試みた。